

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791600079		
法人名	医療法人社団 みどり会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地	香川県仲多度郡多度津町寿町7番3号		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhvou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3791600079&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみどりでは、入居者・家族・職員が一つの大家族として助け合って、豊かな日々を過ごす事を目指している。家族も来所された折には、お客様ではなく、みどりの家族として過ごしていただけるようにおいて、毎日、数人の家族が面会に訪れ、家庭的な雰囲気広がっている。運動・食事・水分摂取・排便には特に気をつけ、事業所周圍の散歩を日課とし、体力の低下を防いでいる。また、季節折々の行事を行ったり、職員と一緒に食事・おやつ作りを行うなど、その方の持っている力を発揮していただけるよう支援している。医療機関が隣接している事で、安心して生活を送っていただける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

同法人の老人保健施設において培った介護方法の活用だけでなく、大規模の施設では十分に実施し得なかった、利用者一人ひとりの暮らしを大切にしたい「家族」のようなホームを目指しており、利用者の笑顔と職員の活気に溢れるホームはその雰囲気が十分に感じられた。職員は、利用者のより良い暮らしについて気軽に話し合えるように、ご家族との信頼関係の構築を重視している。また、職員間の関係も良好で看護職員と介護職員、管理者と職員においても尊重し合った関係が構築されている。利用者の声を中心に、地域の方との連携も今後は強化していき地域の中の「大家族」として期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム みどり(ユニット1)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を踏まえ、職員一人ひとりが、日々の業務にあたっている。	理念は事業開始時に、職員全員で作成した。キャリアに関係なく、一人ひとりの利用者に対する思いを集結し、日々の介護の基本的行動指針となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の中で、自然と挨拶を交わしたり、自宅の庭を見せていただくなど関わりを持っている。	毎日の散歩で顔見知りになった近隣の方からは、自然と声をかけていただくなどの交流が図られている。	戸外に出ない近隣の方も多く、1年目の現在はまだ接触する機会を得ていない。今後はホームから何らかの働きかけをしていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談があった場合は、随時、介護方法などの相談ができるように努力している。本年度は、町内の認知症の勉強会に講師として参加させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方・行政の方に参加していただき、写真・ビデオなどを見ながら、入居者・家族の意見を直接聞いていただき、話し合いの場を持つ事で、今後の取り組みに生かせるように努力している。	行政担当者や地域の方の参加も得ているが、家族や利用者本人も各階交代で大勢参加している。利用者は参加者の意見を聞きながら、自分の意見も発言できる機会となっている。今後は土日など家族が参加しやすい日も計画中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多度津町地域密着型サービス連絡会への出席やその他、相談などを積極的に行い、連携を図っている。	町の担当者には、運営推進会議に参加してホームの事を把握してもらったうえでさまざまな相談を行い、行政の立場からの助言ももらっている。また地域密着型サービス連絡会においては、他の事業所と共に協議したり指導を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する介護老人保健施設へ身体拘束委員が参加し、身体拘束について勉強を行い全員に周知し、会議録にも残している。玄関などの施錠は、職員全員が理解しており、しない取り組みを行っている。	安全に配慮しつつも、人間らしく暮らしていただきたいという願いを重視し、リスクを家族、職員相互に話し合い、拘束しないケアを徹底している。これらは、家族との信頼関係の上で実施できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止について勉強の機会を持っている。また、入浴時などには、皮膚状態の観察を行い、変化を見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者や職員は、権利擁護について研修の機会を持っている。また、町・社会福祉協議会と連携し、必要に応じ活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームについて理解していただけるように、見学・申し込みの段階で、Q&Aで説明している。契約時にも、不安や疑問点をお聞きしながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ユニットの全入居者が参加していただけるように配慮し、各家族にも交代で出席をしていただいている。	運営会議での意見の反映はもちろん、日ごろの面会時にも話しやすい雰囲気を作り、その際得た意見を運営に反映させている。おやつ作りの時間に面会に来られた家族は自然に手伝いをするような関係が築けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りでの意見交換を行っている。また、毎月2回の職員会議や必要に応じミーティングを行い、職員の意見を聞き現場に活かしている。	管理者は日ごろから職員が話しやすい環境を作ったうえで、会議などで意見を聴取している。職員は運営においても自分の意見が反映されていると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の資格、経験年数、本人の勤務状況など、日々観察、把握し、給与手当などに配慮すると共に、仕事に誇りが持てるような支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り内外の研修に参加できるよう、勤務など配慮している。また、どの職員にも2つは国家資格をとようすすめている。研修、勉強の為の支援は惜しまないと伝えてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設1年目であり、開設前研修として同業者数施設での研修、実践研修をさせていただき、相互訪問ができる関係作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて、本人の要望に耳を傾け、一緒に考え・活動し、信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、なるべく多く面会に来ていただき、その都度、生活の様子をお伝えし、不安点にお応えしている。今でも、多くの家族が頻回に訪れてくださっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人・家族の意向を聴き、確認を行った上で、適切なサービスに繋げる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や行事を行う中で、職員が利用者から教わる事も多く、常に入居者の意見・意向が聴けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりを大切にし、面会時に生活状況の報告や行事や外出レクリエーションを楽しんで一緒に参加していただけるように努力している。本年度は、多くの家族協力のもと、南淡路への旅行を楽しんでいただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会時にはゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。また、なじみの美容院への外出やお墓参りなど、家族の協力のもと継続していただいている。	同敷地内の病院を受診した知人の気軽な訪問がある。この馴染みの関係が継続できるよう配慮している。また、馴染みの美容室などへの外出も、家族に協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居心地良く過ごしていただけるように見守りを行い、利用者同士でも助け合いが行われている。助けている人も役に立っていることへの喜びがあり、生き生きと過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、次のサービス事業所に情報提供を行っている。必要に応じ、退居後も相談援助を行っている。また、家族の一員として、お葬式にも参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を普段の生活の中や、色々な場面で確認し、意向に沿って取り組んでいただいている。	初めはなかなか自分の思いや意見を言わなかった利用者も、最近では家族のように自分の意見を言い、時には、利用者間で意見が合わない時も、話し合い、譲り合って解決していった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントや普段の生活の中で、本人・家族にお聴きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回のアセスメントや普段の生活の中で、本人・家族にお聴きし、把握に努めている。また、本人の意向のもと新たなことにもチャレンジしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を主に、主治医・介護職員などの意見を取り入れ、話し合い検討している。	本人の意見を中心に、家族の意見もしっかり取り入れ、職員も話しやすい会議の中で、より利用者らしい暮らしを全員で模索している。職員の中には看護職員が3名おり、健康面からの意見も十分取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活の様子を介護記録に残している。状態の変化や問題点は、毎朝の申し送りで話し合い、申し送りノートでも伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりが、必要なサービスを受けることができるように、必要に応じ外部のサービス(訪問歯科・訪問美容・移動支援)も利用している。看護師を配置することで医療連携が強くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに来ていただいたり、地域の商店への買い物や外食を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関へ受診していただいている。体調の変化があれば、家族・主治医と連携を図り対応している。	入居前のかかりつけ医や、利用者の疾患に合ったかかりつけ医の継続を支援している。受診には家族に付き添いを依頼し、医師、家族、ホームとの連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師の配置により、介護職員が看護職に迅速に相談できる環境にあり、その都度、看護師も相談を受け、必要に応じ医療機関へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、入院先の担当ケースワーカーなどとの連絡や入院先への訪問、家族との連絡により、適切なサービスを受ける事ができるように、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と終末期などのあり方について話し合い、意向を踏まえた上で、医療機関との連携を図り対応している。また、運営推進会議でも議題に上がり話し合いを行った。	運営会議においても終末期を話題とし、各自考えてもらう機会を設けた。自分らしい終末期を今から考えておくことは、本人だけでなく、家族にとっても方向性が見い出せた良い機会となったようである。また、ホームとしてもその願いを叶えるべくチームで支援ができるよう研修などを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策について、勉強会を行い、事故の予防や発生時の対応について訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署に協力していただき、訓練を年2回実施し、地域の自治会長にも参加していただいた。	地元自治会長の参加を得て避難訓練を実施している。	災害時は多くの方の協力が必要である。近隣の方との密接な連携が命運を左右することを理解しており、現在その方法を模索しているので実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・接遇について勉強会を設けている。本人の誇りを損ねないような、声かけができるように心がけている。	気さくで心打ちとける話し方をしつつ、一人ひとりのプライバシーには気配りしている。また、尊厳ある言葉かけにも工夫している様子が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聴き、なるべく自己決定できる場を多く作るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状況にあわせ、起床時間・食事・入浴など対応している。また、天気の良い日には、本人の希望を確認して散歩に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしが継続できるように、家族にも協力していただき、化粧や好みの服が着られるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、職員と利用者が一緒に調理が行えるように努力している。職員が利用者から教わることも多く、梅干しや干し柿作りなどでは、懐かしい話も多く聞かれている。	昼食は業者委託もしているが、半分程度は利用者とともに手作りの料理を行い、行事食や利用者の好みを取り入れるなど工夫している。また利用者は職員が料理の本などを熱心に見て研究していることを喜んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分・食事量、排泄チェック、毎月の体重測定を行っている。一人ひとりの食事量の希望や体調に合わせ、食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要な方には介助している。歯科衛生士に口腔内のチェックをしていただき、必要に応じ週1回の訪問歯科診療を利用している。お誕生日には、その方に合った歯ブラシもプレゼントしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用数が減らせるように、尿意・便意がない方にも職員が時間を決め誘導し、トイレで排泄していただけるように努力をしている。	トイレでの排泄を基本とした考え方をもち、排尿チェックなどで排泄のアセスメントをするなど、おむつは極力つけないよう努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、うまく自然排便が見られるように、運動・食事・水分・排泄習慣などに気をつけて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせ、本人の意向を確認して入浴を促している。その方の希望に合わせて、夕食以降にも入浴をしていただいている。	週3回を最低限度とした入浴の支援をしている。夜7時頃であっても希望があれば支援しており一人ひとりが入浴を楽しめるように努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせ、日中はなるべく起きて過ごしていただけるように支援している。夕食後は、早く寝過ぎないように、お話をしたり、テレビを見てくつろげる時間を設け、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の利用や看護師による薬の管理を行っている。薬の目的・副作用・用法・用量について職員が閲覧できる場所に設けている。薬の情報や注意点は看護師がアドバイスしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初回アセスメントや日々の生活の中で、生活歴をお聴きし、その方の嗜好に合わせた支援が行えるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、意向を確認し、なるべく散歩ができるように支援している。また、本人の希望を聴き、家族に協力していただき、なじみの場所へ外出支援をしていただいている。	近隣への散歩は日常的な日課となっている。また、同法人の持つマイクロバスにより、買い物や公園へは気軽に出かけ、利用者たちの希望により家族と一緒に一泊旅行も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を踏まえ、小遣いを事務で預かり、日常で必要な時に職員と一緒に買い物行き使用している。家族が収支の確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族への電話や、大切な方との手紙のやり取りができるよう、はがきの購入やポストへの投函など、その方に合わせた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除をはじめ、整理整頓や四季折々の置物や飾りにより、家庭的で落ち着いた空間になるように努めている。	季節感のある飾り物や昔懐かしい飾り物により気持ちを休めることができている。ホーム内は利用者とともに毎朝清掃を行っているため清潔感があり、時には掘りごたつに入り、居心地よく話ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の和室や食堂、またソファなどで、気の合った方同士でお話をしたり、本や新聞を読まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドやキャビネットに加え、本人・家族の希望により家具を持ち込んでいただき、その人らしい空間になるように工夫している。	本人の希望に応じたものを持ちこみ、その人らしい居室づくりをしている。居室へのテレビの持ち込みはしない方針であったが、家族の希望により許可している。ただし、実際には本人はリビングで過ごすことが多く居室では見えないようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室に手すりを設置し、「できること」をしていただけるような環境づくりをしている。また、トイレやそれぞれの居室にはマークを付けることで、分かりやすい工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を踏まえ、職員一人ひとりが、日々の業務にあたっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の中で、自然と挨拶を交わしたり、自宅の庭を見せていただくなど関わりを持っていただけている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談があった場合は、随時、介護方法などの相談ができる様に努力している。本年度は、町内の認知症の勉強会に講師として参加させていただいた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方・行政の方に参加していただき、写真・ビデオなどを見ながら、入居者・家族の意見を直接聞いていただき、話し合いの場を持つ事で、今後の取り組みに生かせるように努力している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多度津町地域密着型サービス連絡会への出席やその他、相談などを積極的に行い、連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する介護老人保健施設へ身体拘束委員が参加し、身体拘束について勉強を行い全員に周知し、会議録にも残している。玄関などの施錠は、職員全員が理解しており、しない取り組みを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止について勉強の機会を持っている。また、入浴時には、皮膚状態の観察を行い、変化を見逃さないようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者や職員は、権利擁護について研修の機会を持っている。また、町・社会福祉協議会と連携し、必要に応じ活用できるように支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームについて理解していただけるように、見学・申し込みの段階で、Q&Aで説明してる。契約時にも、不安や疑問点をお聞きしながら説明を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ユニットの全入居者が参加していただけるように配慮し、各家族にも交代で出席をしていただいている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りでの意見交換を行っている。また、毎月2回の職員会議や必要に応じミーティングを行い、職員の意見を聞き現場に活かしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の資格、経験年数、本人の勤務状況など、日々観察、把握し、給与手当などに配慮すると共に、仕事に誇りが持てるよう様々な支援をしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り内外の研修に参加できるよう、勤務など配慮している。また、どの職員にも2つは国家資格をとるようすすめている。研修、勉強の為の支援は惜しまないと伝えている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設1年目であり、開設前研修として同業者数施設での研修、実践研修をさせていただき、相互訪問ができる関係作りにも努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて、本人の要望に耳を傾け、一緒に考え・活動し、信頼関係を築けるように努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、なるべく多く面会に来ていただき、その都度、生活の様子をお伝えし、不安点にお応えしている。今でも、多くの家族が頻回に訪れてくださっている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人・家族の意向を聴き、確認を行った上で、適切なサービスに繋げるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や行事を行う中で、職員が利用者から教わる事も多く、常に入居者の意見・意向が聴けるように努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりを大切に、面会時に生活状況の報告や行事や外出レクリエーションを楽しんで一緒に参加していただけるように努力している。本年度は、多くの家族協力のもと、南淡路への旅行を楽しんでいただいた。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会時にはゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。また、なじみの美容院への外出やお墓参りなど、家族の協力のもと継続していただいている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居心地良く過ごしていただけるように見守りを行い、利用者同士でも助け合いが行われている。助けている人も役に立っていることへの喜びがあり、生き生きと過ごされている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、次のサービス事業所に情報提供を行っている。必要に応じ、退居後も相談援助を行っている。また、家族の一員として、お葬式にも参列させていただいている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を普段の生活の中や、色々な場面で確認し、意向に沿って取り組んでいただいている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントや普段の生活の中で、本人・家族にお聴きし把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回のアセスメントや普段の生活の中で、本人・家族にお聴きし、把握に努めている。また、本人の意向のもと新たな事にもチャレンジしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を主に、主治医・介護職員などの意見を取り入れ、話し合い検討している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活の様子を介護記録に残している。状態の変化や問題点は、毎朝の申し送りで話し合い、申し送りノートでも伝達している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりが、必要なサービスを受けることができるように、必要に応じ外部のサービス(訪問歯科・訪問美容・移動支援)も利用している。看護師を配置することで医療連携が強くなっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに来ていただいたり、地域の商店への買い物や外食を楽しんでいただいている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関へ受診していただいている。体調の変化があれば、家族・主治医と連携を図り対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師の配置により、介護職員が看護職に迅速に相談できる環境にあり、その都度、看護師も相談を受け、必要に応じ医療機関へ繋げている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、入院先の担当ケースワーカーなどとの連絡や入院先への訪問、家族との連絡により、適切なサービスを受ける事ができるように、連携を図っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と終末期などのあり方について話し合い、意向を踏まえた上で、医療機関との連携を図り対応している。また、運営推進会議でも議題に上がり話し合いを行った。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策について、勉強会を行い、事故の予防や発生時の対応について訓練を行った。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署に協力していただき、訓練を年2回実施し、地域の自治会長にも参加していただいた。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・接遇について勉強会を設けている。本人の誇りを損ねないような、声かけができるように心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聴き、なるべく自己決定できる場を多く作るように心がけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状況にあわせ、起床時間・食事・入浴など対応している。また、天気の良い日には、本人の希望を確認して散歩に出かけている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしが継続できるように、家族にも協力していただき、化粧や好みの服が着られるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、職員と利用者が一緒に調理が行えるように努力している。職員が利用者から教わることも多く、梅干しや干し柿作りなどでは、懐かしい話も多く聞かれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分・食事量、排泄チェック、毎月の体重測定を行っている。一人ひとりの食事量の希望や体調に合わせ、食事量の調整を行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要な方には介助している。歯科衛生士に口腔内のチェックをしていただき、必要に応じ週1回の訪問歯科診療を利用している。お誕生日には、その方に合った歯ブラシもプレゼントしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用数が減らせるように、尿意・便意がない方にも職員が時間を決め誘導し、トイレで排泄していただけるように努力をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、うまく自然排便が見られるように、運動・食事・水分・排泄習慣などに気をつけて支援している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせ、本人の意向を確認して入浴を促している。その方の希望に合わせて、夕食以降にも入浴をしていただいている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、日中はなるべく起きて過ごしていただけるように支援している。夕食後は、早く寝過ぎないように、お話をしたり、テレビを見てくつろげる時間を設け、個々に対応している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の利用や 看護師による薬の管理を行っている。薬の目的・副作用・用法・用量について職員が閲覧できる場所に設けている。薬の情報や注意点は看護師がアドバイスしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初回アセスメントや日々の生活の中で、生活歴をお聴きし、その方の嗜好に合わせた支援が行えるように努力している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、意向を確認し、なるべく散歩ができるように支援している。また、本人の希望を聴き、家族に協力していただき、なじみの場所へ外出支援をしていただいている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を踏まえ、小遣いを事務で預かり、日常で必要な時に職員と一緒に買い物へ行き使用している。家族が収支の確認を行っている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族への電話や、大切な方との手紙のやり取りができるよう、はがきの購入やポストへの投函など、その方に合わせた支援を行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除をはじめ、整理整頓や四季折々の置物や飾りにより、家庭的で落ち着いた空間になるように努めている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の和室や食堂、またソファーなどで、気の合った方同士でお話をしたり、本や新聞を読まれている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドやキャビネットに加え、本人・家族の希望により家具を持ち込んでいただき、その人らしい空間になるように工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室に手すりを設置し、「できること」をしていただけるような環境づくりをしている。また、トイレやそれぞれの居室にはマークを付けることで、分かりやすい工夫をしている。